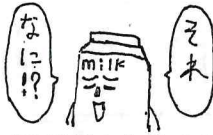


「学校給食週間」について



『学校給食週間』は、戦争で中断した学校給食が再開されたことを記念してできたものです。

「学校給食についての理解を深め、給食がさらに盛り上がるような取り組みをすること」が期待されています。

◆『学校給食の歴史』と『給食献立の移り変わり』◆

明治22年 (1889年)
山形県の私立忠愛小学校で、お弁当を持ってこれない子どものために食事を提供したのが、日本の学校給食の始まりとされる。

（おにぎり、焼き魚、漬物）

学校の創設者 佐藤 聖山
忠愛小学校は、お寺の中にある。

お坊さんによる学校。

大正12年 (1923年)
9月1日に関東大震災が発生。義援金により給食が実施され、学校給食の価値が広く認められるようになる。

（五色ごはん、菜羹みそ汁）

山形から全国へ
学校給食は、よい取り組みとして

日本全国に広まっています。

昭和17年 (1942年)
昭和16年に太平洋戦争が始まると、食料が不足し、全国的に給食が中止され始める。昭和19年に6大都市の小学生に特別配給の物質による学校給食が実施される。

（すいとんのみそ汁）

当時の6年生は、今の4年生の体が大きさしかなかったそうです。みんなお腹をすかせていました。

日本中で食料が不足して...

昭和40年 (1965年)
昭和38年に「ソフトめん」が登場。また、昭和39~43年ごろにかけて、脱脂粉乳から牛乳へと切り替わる。

（ソフトめんミートソース、牛乳、フレンチサラダ）

「サン食」の登場が、個包装麺を出してくれています。

東てくれない人、たよね!

沖繩県にもソフト麺はありませぬが、サン食の登場は北都まで。

昭和25年 (1950年)
アメリカから寄贈された小麦粉で8大都市の小学生に「パン・ミルク・おかず」の完全給食が実施される。

（コッパン、ミルク（脱脂粉乳）、カレーシチュー）

「ラ」物資買贈呈式が行なわれた1950年12月24日が「学校給食感謝の日」となりました。

給食が再開されたことに感謝して

1950年度から12月24日、学校給食週間となりました。

昭和22年 (1947年)
昭和20年に戦争が終わり、子どもたちの栄養状態を改善するため、この年から支援物資による学校給食が全国で開始される。

（ミルク（脱脂粉乳）、トマトシチュー）

この支援物資は「ラ」物資買贈呈式と呼ばれていきます。

世界の中からの支援は5年間を続けます。

今のお金の価値で400億円分にもなったそうです。

昭和51年 (1976年)
白米飯（ご飯）が正式に導入される。当初は炊飯するための設備が整わず、おかずを作る釜で飯を炊く施設が多かった。

（カレーライス、牛乳、塩もみ、ゆで卵）

「米飯給食」の実施で、パン屋さんの仕事はなくなりつつあります。

現在もほとんどの学校で、ご飯も作っています。

ご飯はパン屋さんで炊いてもらってここに盛りました。

センターモリ、新大豆製パン、屋敷給食

ちなみに沖縄県では...

- 昭和24年にミルクのみの給食。
- 昭和30年にミルクとパンの給食。
- 昭和41年に今のような『完全給食』となりました。

沖縄県の「完全給食」第一号は1952年7月に豊見城市上田小学校で、続いて同年11月に名護市東江小学校で行なわれました。

「完全給食」とは、主食（米、パン、麺など）、ミルク、おかず、果物、給食のこと。

●現在の学校給食は...

「栄養バランスが整えられた食事をみんなで一緒に食べる」ということを通して、食に関する正しい知識や、望ましい食習慣を身に付けること、社会性や感謝の心を育むこと、など様々な事を学ぶ「生きた教材」としての役割を担っています。

「食」は生きるとしての大切な役割を担っています。

学校の給食は大切な役割を担っています。

栄養士

うん、その基本!!

学びの時間です!!